

平成20年度学校経営計画表

1 学校の現況

学校番号	36	学校名	常北高等学校			課程	全日制		学校長名	渡邊一夫						
教頭名	原田令子						事務(室)長名	坂場政己								
教職員数	教諭	17	養護教諭	1	常勤講師	3	非常勤講師	3	実習教諭, 実習講師, 実習助手	1	事務職員	2	技術職員等	2	計	32
生徒数	小学科	1年		2年		3年		4年		合計		合計	クラス数			
		男	女	男	女	男	女	男	女	男	女					
	普通科	42	18	16	12	22	11			80	41	121	6			
	科															
	科															

2 目指す学校像

創立以来45年の歴史と伝統に基づき、校訓の「至誠、勤勉、協和」の精神を徹底させ、心身ともに調和のとれた人間形成を図るとともに、地域社会に貢献できる学校づくりを目指す。

3 現状分析と課題（数量的な分析を含む。）

項目	現状分析	課題
学習指導	学力向上スーパープラン(3年目)の小人数授業を国語・数学・英語で実施している。生徒の基礎学力の定着、学習意欲の向上の達成度は未だ不十分である。	個に応じた学習指導や分かる授業の展開により、基礎学力の向上を図るとともに、学習意欲の喚起を図る必要がある。
進路指導	平成19年度卒業生38名は、進学12名、就職26名と全員の進路が決定した。しかし、進路に対する意識がまだ低い状況である。	進路ガイダンスや体験的活動等の実施を通して、1年次からのキャリア教育の徹底を推進する必要がある。
生徒指導	大半の生徒の生活態度は真面目である。一部に基本的な生活習慣が確立されていない生徒や、遅刻を繰り返す生徒がいる。また、規範意識が低く、社会のルールやマナーを守れない生徒も若干名いる。	基本的な生活習慣の育成を図るとともに、規律ある生活等の意義について理解を深めさせ、社会のルールやマナーを守る大切さを理解させる。
特別活動	生徒数の減少等により、部活動が全般的に低調である。また、ホームルーム活動はホームルーム活動資料集を使うなどして、ホームルーム活動の充実を図っているが、まだ指導に工夫が必要である。	学校として部活動の加入率を高めるとともに、ホームルーム活動の活性化を図る工夫が必要である。

4 中期的目標

1	学校行事を精選し，授業時間を確保するとともに，1時間，1時間の授業の充実を図る。
2	授業や特別活動等を通して心の教育に努め，モラルやマナーを身に付けさせ，基本的な生活習慣の確立を図る。
3	挨拶の徹底を図るとともに，遅刻防止や時間厳守の態度を身に付けさせる。
4	部活動への加入を促進し，活性化に努め，個性の伸長と忍耐力・体力の向上を図る。
5	国際理解教育を推進して，国際社会に生きる人間の育成を図る。

5 本年度の重点目標

重点項目		重点目標
1	基礎学力の向上と学習意欲の喚起	計画的な教科指導を実施するとともに，少人数授業の展開に一層の工夫改善を図る。 シラバスや学習進度表を活用して，学習意欲を喚起する。 十分な教材研究や公開授業等を通して，わかりやすい授業の展開に努める。
2	挨拶の励行と規範意識の育成	登下校時の挨拶，授業の始まりや終わりの挨拶，校内での挨拶を徹底する。 年3回の計画的な生徒面談や家庭訪問等により，生徒理解に努める。 頭髪・服装指導や遅刻防止等の徹底に努め，基本的な生活習慣の確立を図るとともに，規範意識の育成に努める。
3	望ましい勤労観・職業観の確立	3年間を見通した計画的な進路指導を実施する。 職場見学，キャンパス見学，2年次における生徒全員のインターンシップ等の体験的な活動を通して，進路意識の高揚を図る。 資格取得の奨励を通して，より確かな進路実現を図る。
4	特別活動の活性化	生徒の部活動等への積極的な参加を促し，放課後の充実した過ごし方の指導に努める。 ホームルーム活動や生徒会活動を通して，生徒の積極性を育成する。
5	地域から信頼される学校づくりの推進	ホームページや広報紙等の充実を図り，保護者・地域への積極的な情報の提供に努める。 学校評議員や地域の中学校等の意見を取り入れ，地域と連携した教育を推進する。 計画的に外部への公開授業を実施し，本校に対する理解の推進を図る。